

九大広報

KYUSHU UNIVERSITY CAMPUS MAGAZINE

10
2018 Oct.
vol.112

感謝



伊都キャンパス
完成記念号

九州大学



歴史散策

KYUDAI HISTORY STROLL

20

九州大学附属農場乳牛舎

箱崎キャンパスからほど近い、JR原町駅から徒歩15分弱というアクセス良好な場所に九州大学の附属農場があります。ここには1923(大正12)年竣工の乳牛舎をはじめ農学部創立以来の木造建築が多数現存しており、歴代多くの農学部生がここで汗を流しました。西日本最古の米国式農場施設群としても著名で、良好な農場景観を見ることができます。今回の伊都キャンパス完成に伴い、附属農場も2020年度に移転予定で、周辺では郡衙と見られる遺構も発掘されたことから跡地の動向が注目されています。

市原猛志(大学文書館 協力研究員)



乳牛舎は現在も用途そのままに農場施設として使用されている(2018年8月撮影)

目次

完成記念特集①

伊都キャンパス完成記念特集

38	37	34	31	25	21	11	07	06	05	03	02	
Information	MUSEUM REPORT	同窓会だより	九州大学基金	KYUDAI TOPICS	記者会見レポート	移転決定から完了までの道のり	特別対談	新キャンパス・マスター・アーキテクト委員会 委員長 渡邊 定夫 副委員長 安浦 寛人	第23代九州大学総長 久保 千春	第19代九州大学総長 和田 光史 第18代九州大学学長 高橋 良平 第20代九州大学総長 杉岡 洋一	歴代総長の功績 梶山 千里 有川 節夫	伊都キャンパス完成記念特集
●在ベトナム同窓生との懇談会	●農学部同窓会 定例会議さよなら「箱崎農学部」同窓会	●理学部地質学科・地球惑星科学科同窓会(能古会)東京支部	●芸術工学50周年記念事業	●東京九機会見学会	●関西同窓会 夏季パーティー							
●芸術工学50周年記念事業												

表紙について

このたび、九州大学伊都キャンパスが完成いたしました。九大広報112号を「伊都キャンパス完成記念号」とし、今まで支えてくださった多くの方々への「感謝」の想いをまとめました。写真はキャンパスの全貌を1枚に収めたものです。裏表紙も広げてご覧ください。

伊都キャンパス完成記念ロゴについて

このマークは伊都キャンパスの完成を祝い、同時に未来へ向けて全学一丸となって不断の成長を続けるイメージから発想したものです。

制作:芸術工学部4年 横口友美さん／和・英組みロゴ監修:芸術工学研究院 伊原久裕教授



■編集・発行:九州大学広報室 〒819-0395福岡市西区元岡744

■TEL:092-802-2130 ■FAX:092-802-2139

■E-mail:koho@jimu.kyushu-u.ac.jp

■Webサイト:<http://www.kyushu-u.ac.jp/>

■印刷:株式会社ミドリ印刷 ■編集協力・取材:株式会社チカラ

■撮影:岡本正人、加来和博、中西ゆき乃、平川雄一郎、篠原ハノシ

■デザイン:才原貴生(Office Chameleon)

○お読みになつてのご感想やご意見をお待ちしています。

○本誌記事を転載する場合は、事前に九州大学広報室までご連絡願います。

○「九大広報」は九州大学Webサイトでもお読みいただくことができます。

○次号は、2019年1月発行予定です。

祝

伊都キャンパス 完成記念特集

「常に未来の課題に挑戦する大学」として進化し続ける



2005年から始まった移転事業が完了し、東西3km、南北2・5km、272haで单一キャンパスとしては国内最大規模の伊都キャンパスが完成しました。10月からは学生・教職員約1万9千人が伊都へ通勤・通学することになります。

伊都キャンパスは古来より大陸文化を取り入れた伊都の国としての歴史ある場所であり、福岡市中心部から約15kmの距離にあります。糸島半島の豊かな自然と都市近郊にある利便性を生かし、産学官の連携によって整備される学術研究都市の核となっています。

また、この広大なキャンパスを生かすべく、実証実験キャンパスとして、さまざま企業と協力しながら、次世代に向けた最先端の研究に取り組んでいます。

古代からアジアの玄関口である福岡で、本学は、福岡県、福岡市、糸島市や経済界とも協力しながら、アジアのハブ（拠点）大学を目指しています。

全ての準備が整いました。伊都キャンパスから新たな歴史の1ページを創造していくきます。



石ヶ原古墳跡展望展示室にて

激動の大学改革の中で、 新しい九大づくり 大学内に居酒屋も誕生！

第21代九州大学総長

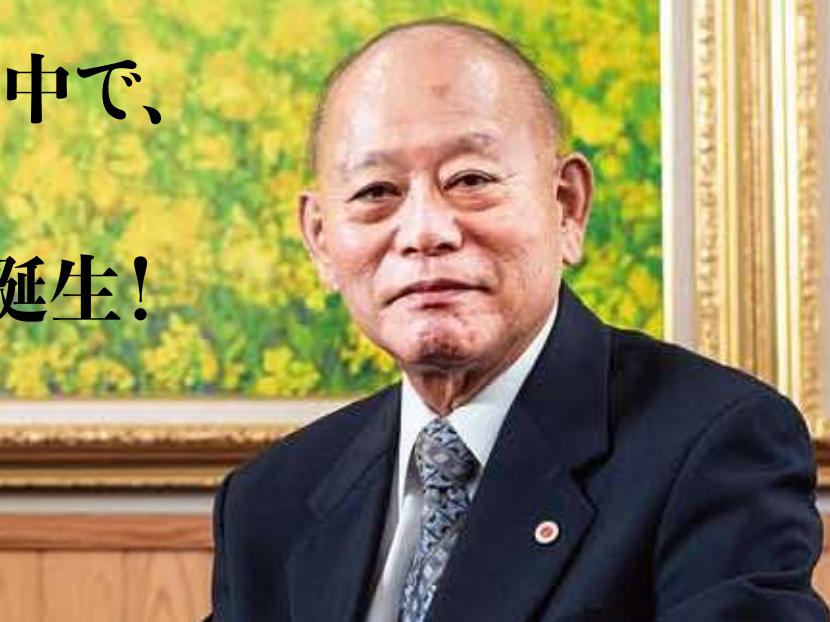
梶山 千里

任期／2001年～2008年

現 福岡女子大学理事長・学長

――第一陣が伊都キャンパスに移った時は仮設食堂以外に飲食施設がなかったと聞きました。そうなんです。だから居酒屋「九大あかでみくらんたん」をつくりました。

――伊都キャンパスだからこそ出来る新しい研究があったのですね。水素利用社会実現を見据え、伊都キャンパスはエネルギー科学技術の実証実験キャンパスとして整備しました。今では水素エネルギー研究に関する世界有数の拠点になっています。



――梶山先生が第21代総長に就任されていた間は激動の時期ですね。

2003年の九州芸術工科大学との統合、2004年の法人化、2005年からの移転、2011年の創立百周年記念事業のスタート。大きな事が4つも重なったのですが、私は困難な事があれはあるほどファイトが沸いてくる性格です(笑)。困難な時期こそ九州大学の変革のチャンスだと思いました。伊都キャンパスへの移転の主な理由は、研究環境の窮屈さと飛行機の騒音が挙げられます。将来はナノサイエンスやバイオサイエンスの重要性が高まるとき研究の質を高める意味でも、伊都キャンパスへの移転が必要でした。

――伊都キャンパスだからこそ出来る新しい研究があったのですね。

伊都キャンパスはエネルギー科学技術の実証実験キャンパスとして整備しました。今では水素エネルギー研究に関する世界有数の拠点になっています。



2006年1月「九大あかでみくらんたん」で地元の方々と

と、「近隣の方々との交流の場にすること」また、周囲に娯楽が何もない状況だと、精神的に追い込まれてしまう人がおり、その予防のためでもあります。リラックスして親交を深められる場所にしたかったのです。人間関係も健康も、心と心の問題ですから。交流があれば支え合う関係が成り立ちます。

――地元の方々との交流を大切にしてこられたそうですね。

地元の方々が温かく迎え入れてくださり、年に数回の交流会を開催して糸島地区の郷土料理を味わっていました。移転対策協議会・元岡・桑原地区の方々や地元市会議員が集まり、いつも店に入りきれないほど盛況でした。交流の場をきっかけに大学側からきちんと研究や教育に関する情報を開示すること、地元の方々と大学の在り方を互いに理解し合うことが地域に根ざす教育の場の在り方だと考えるようになりました。

建築の実例を挙げて、黒川さんに「複雑で分かりにくいものを造らないでほしい」と注文したのは私が初めてだと言わされました(笑)。

――伊都キャンパスの完成で伝えたいことは?

教育の質を高めるには最低5年から10年かかると言われています。移転は今後の百年を変える大きな契機となるでしょう。ただ、忘れてほしくないのは、箱崎キャンパスを支えてくださった箱崎の地元の方々への感謝です。創設に協力してくれました。伊都キャンパスでも施設や設備を快く受け入れてくださった方も多数いらっしゃいます。「教育環境が整うのは、今も昔も地元の方々のおかげだ」という感謝だけは忘れてはいけません。

――伊都キャンパスには新しい九大づくりの想いが随所に込められています。

そう。学府・研究院制度といつて、学生と教員の組織を別にして新分野を編成しやすくなったのは九大が全国で最初です。建物自体も教育や研究の変革をしやすいよう設計されています。特にセンター地区を設計した建築家の黒川紀章さんとのやり取りは印象的でしたね。黒川さんは遊び心のある人ですからいろいろな提案をされます。何度も話し合いを重ね、大学の立場を伝え、センターゾーンの構想が完成しました。

建築の実例を挙げて、黒川さんに「複雑で分かりにくいものを造らないでほしい」と注文したのは私が初めてだと言わされました(笑)。

――伊都キャンパスの完成で伝えたいことは?

教育の質を高めるには最低5年から10年かかると言われています。移転は今後の百年を変える大きな契機となるでしょう。ただ、忘れてほしくないのは、箱崎キャンパスを支えてくださった箱崎の地元の方々への感謝です。創設に協力してくれました。伊都キャンパスでも施設や設備を快く受け入れてくださった方も多数いらっしゃいます。「教育環境が整うのは、今も昔も地元の方々のおかげだ」という感謝だけは忘れてはいけません。

さあ、舞台は整った! 支えてくださった方々の 想いを次世代へ繋ぐ

第22代九州大学総長

有川 節夫

任期／2008年～2014年

現 放送大学学園理事長



—有川先生はキャンパス担当理事。副学長時代から総長時代も含めると13年間、心血を注いでこられました。文部科学省をはじめ政財界や住民の方々など、キャンパス移転への理解を広く学内外からいただくことが最大の課題でした。理事・副学長として移転問題に深く関わっていたので、総長に推薦された時、この「移転」という難題を1日も早く解決しなければ、という切迫感をもつて引き受けた次第です。

—伊都キャンパスを「未来社会の実証実験キャンパス」にしたいと言い続けいらっしゃいましたね。

伊都キャンパスは環境保全や遺跡の保存を徹底し、賞をいただくほど「自然との共生」や「歴史との共生」で特色あるキャンパスです。ですが、もう一つ重要な要と考えたのは、このキャンパスで「未来社会」を感じてもらうこと。まず、水素エネルギーとICカードの実証実験に取り組み、水素に関しては世界最先端の研究拠点となりました。ICカードについては、当時は交通カードがやつと使えるようになつた時代でしたが、本学教授の発想によるレベルの違う認証、鍵、電子マネーなどを1枚に統一でき、進化するカードを伊都キャンパスで実現できました。学生・教職員に未来を感じてもらえたのではないかと思っています。

—椎木講堂寄贈をはじめ、学外から多大な支援をいただきました。

九大の卒業生ではない方たちから多大なご支援をいただけたのは本当にありがとうございました。椎木正和様からのご寄贈で椎木講堂ができました。あの規模の講堂は日本初です。また、麻生知事(当時)には西警察署を近くに移して治安を確保していただき、水素プロジェクトをさまざまな形で強力にサポートしていただきました。歴代福岡市長は、用地の先行取得をはじめ、主要幹線道路の整備、消防署の出張所や産学連携交流センターの設置など、種々の支援をしてくださいました。コミュニティイメージ構想を一緒に描いていただきたこともありました。糸島市にも合併前からいろいろな支援をいただきました。JR九州の石原社長(当時)には、伊都キャンバスの周辺にまだ何もない時期に、「九大学研都市駅」という新駅をつくり、学研都市としての発展を先導していただきました。その他、多くの皆さんからのさまざまご支援をいただきました。それらがなければ、伊都キャンパスは完成し得なかつたでしょう。

—移転に関して、印象に残っている「でき」とは?

伊都キャンパスへの移転には、開始直前まで反対の人たちもいたのですが、六本松キャンパスを閉鎖するときに、卒業生、現役の学生、先生たちが参加して「ありがとうございました」というイベントを開いてくれた

こと。皆さんのが感謝の気持ちと未来への熱い想いが伝わりました。



2009年3月「青春群像さようなら六本松」男声合唱団コールアカデミーによる合唱

—多くの方に支えられた新しい伊都キャンパスを、どのような場所だと捉えていますか。

「種をまくる人」「水をやる人」「収穫する人」は別の方がいい。先代がまいた種に水をあげて育て、収穫した人々は、感謝して、次代のために新たな種をまいておく。大きな事業ほど、このように心構えが必要だと思います。伊都キャンパスは、歴代の関係者の想いを繋いでようやく完成した新しい舞台です。さあ、舞台は整いました。大いに羽ばたいて、学習や教育・研究、社会貢献に努め、次世代に繋いでいくください。

伊都新キャンパスの完成と

統合移転計画の完了を祝して

第19代九州大学総長

和田 光史

任期／1991年～1995年



～移転決定以降、構想実現に向けて～

歴代総長の功績

新キャンパス基本構想を策定

1991年11月に就任した和田総長は、1993年に新キャンパス用地27.5haを確定、福岡市に用地の先行取得を依頼した。同年には政府予算に移転調査費が計上され、調査・計画などの実行をより新キャンパス計画が動き出した。

1991年11月に就任した和田総長は、担う部署として学内に新キャンパス計画推進室を設置した。同推進室を中心とした用地の調査に基づき、1994年に新キャンパス基本構想の次案を策定、これに

存ゾーンとして残存する計画に変更した。もう一つは文化財保存問題である。新キャンパス予定地は、国内最大の製鐵遺構が見つかるなど、貴重な遺跡が多数存在していた。これらの遺跡を全て保存することは困難であったが、

中、学府・研究院制度を導入する大学院重点化をはじめとする教育・研究体制の確立、新キャンパス構築で可能となつた教育・研究の拡大、充実を図り、時とともに

変わる社会の要請に応える教育・研究成果を着実に挙げてまいりました。伊都新情勢の下、この27年を要した新キャンパス構築・統合移転は、九州大学百余年の歴史に特記される大事業で、この間、九州大学は、病院地区の再開発を2009年9月に完了、大学改革の機運が高まる

2018年9月、九州大学は伊都新キャンパス完成と、1991年10月決定の箱崎、六本松地区から元岡・桑原地区へのキャンパス統合移転計画完了を合わせて迎えることができました。誠におめでとうございます。大学を取り巻く厳しい社会情勢の下、この27年を要した新キャンパス

構築・統合移転は、九州大学百余年の歴史に特記される大事業で、この間、九州大学は、病院地区の再開発を2009年9月に完了、大学改革の機運が高まる

新キャンパス造成で直面した種々の問題に対処

杉岡総長は、先代の和田光史総長と一緒に策定された基本構想に基づき、新キャンパス計画を推進したが、多くの問題に直面することとなった。その一つは環境問題である。新キャンパス用地は水源地であり、当初は水源と大原川を埋め立てる予定であった。しかし、大学が環境破壊をまねくような造成はできないとして、水源地を生物多様性保

存ゾーンとして残存する計画に変更した。もう一つは文化財保存問題である。新キャンパス予定地は、国内最大の製鐵遺構が見つかるなど、貴重な遺跡が多数存在していた。これらの遺跡を

マスター・プランを策定するなど、新キャンパス像を具体化した。加えて、

～移転決定以降、構想実現に向けて～

新キャンパス移転を決定

第18代九州大学学長
任期／1986年～1991年

高橋 良平

高橋学長は、2期目の最大の課題としてキャンパス移転を挙げ、1990年に新キャンパス構想委員会を設置した。同委員会は全部局挙げての統合移転を検討することを提言し、この提言に基づき同年末に新キャンパス構想策定専門委員会が設置された。専門委員会が承認され、元岡地区への移転が

会で承認され、元岡地区への移転が決定した。こうして高橋学長は移転へ道筋を付け、同年11月退任した。

※1990年～1991年「総長」の呼称を廃止、「学長」のみを使用

第20代九州大学総長
杉岡 洋一

任期／1995年～2001年



第23代九州大学総長
任期／2014年～

久保 千春

はじめに
九州大学伊都キャンパスが完成いたしました。これまで移転をご支援いただいた多くの皆さまのご理解とご協力によるものであり、心より感謝申し上げます。

1991年10月に移転を決定して以来、27年が経過しました。6代の総長に渡り、伊都キャンパスへの移転事業は成されました。伊都キャンパスへの移転は第1ステージとして2005年の工学系から始まりました。2009年には第2ステージとして旧六本松キャンパスから全学教育・比較社会文化研究院および言語文化研究院が、2015年には第3ステージとして理学系が移転し、2018年になつて人文社会科

学系、農学系が移転して、移転対象となつた全ての部局の移転が完了しました。

九州大学は、次の百年に向けて「躍進百大」、すなわち、全ての分野において世界のトップ百大学に躍進する、というスローガンを掲げ、「自律的に改革を続け、教育の質を国際的に保証するとともに、常に未来の課題に挑戦する活力に満ちた最高水準の研

九州大学 伊都キャンパスの 完成とこれから

究教育拠点となる」ことを目指しています。予定していた部局の学生と教職員が全て伊都キャンパスに集まり、次の百年に向けた舞台づくりが整いました。

施設建設と地域交流

伊都キャンパスは、豊かな自然環境に恵まれた広大な丘陵であり、里山の風景や美しい海岸線が広がります。施設は延べ床面積約51万m²になります。キャンパス周辺の街づくりは日に日に進んでおり、勉学・研究にいそむには素晴らしい環境です。

また、2011年の創立百周年には稲盛財団から稲盛財団記念館、椎木正和様から椎木講堂などをご寄贈をいただき、立派な施設が利用できるようになりました。

さらに、地域の皆さんには九州大学を温かく迎えていただきました。今後も、地元を中心として産業界や自治体と協力し、大学の資源と地域の資源を相互に利活用しながら、より強固な関係を築いてまいります。

箱崎、六本松の皆さんには、大学の設置以来、これまで長年に渡つてご支援をいただいたことに、御礼申し上げます。六本松では、福岡高等裁判所、福岡市などと綿密に連携して新しい六本松の歴史をスタートさせています。箱崎キャンパスでは、跡地利用協議会で議論を重ね、福岡市などと綿密に連携してグランドデザインを策定しており、これを踏まえて着実に跡地再開発を推進してまいります。

九州大学のこれから

九州大学の重点的な取り組みとして、エネルギー研究教育機構によるイノベーションの創出、新学部である共創学部の設置によるグローバルに活躍する人材の育成、人文社会科学分野などの再編成・機能強化による九州大学のさらなる活性化を目指しています。さらに、超スマート社会をにらんだ自動運転バスや水素をはじめとする次世代エネルギーなどの実証実験の場として、さまざまな取り組みを行っています。

伊都に完成したこの新しい未来型キャンパスを核として、研究、教育、产学官連携を発展させ、常に未来の課題に挑戦する大学であり続けたいと思います。皆さまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

自然と共生し、創造する 伊都キャンパスへ馳せる想い



1956年東京大学工学部建築学科卒業。1984年東京大学都市工学科教授に就任。専門は都市計画、都市設計。1993年東京大学を退官。同大学名誉教授。日立駅前計画、幕張ペイタウンのデザインなどを指導。1985年日本都市計画学会論文賞、1988年日本都市計画学会設計賞、日本建築学会論文賞。著書に『アーバンデザインの現代的展望』、『新しい都市居住の空間』ほか。

委員長 [東京大学 名誉教授]

新キャンパス・マスター！

アーキテクト委員会

共生するキャンパスへ 自然、歴史と

—九州大学の新キャンパス計画をお聞きなつて、まず何を感じましたか。

渡邊 キャンパス計画をどのように組み立

てるのか、当時から関心がありました。戦後の大学は師範学校や高等専門学校、單科大学などをまとめて各地方に総合的な大学を作ろうという国の政策があり、私も関わっていたからです。九州大学の移転で、新しい世代に合わせた大学へ変わっていく

過程を見られるのだと興味を持った覚えなっています。

安浦 当時は総合理工学研究科の情報シ

ステム学専攻で筑紫キャンパスに勤務していました。自分は移転の対象外だと思っていたら、大学院重点化が進み、教育研究組織を再構成することになり、工学系の電気情報系と情報理学の研究者たちと合併してシステム情報科学研究科が発足しま

安浦 寛人

した。一緒にプロジェクトを進めていたこともあり、一ヵ所に集まつて研究するのに、移転はちょうどいいタイミングだと思いました。

——伊都キャンパスの移転のメリットとは一体何でしょうか。

安浦 自然、歴史と共生できることです。糸島は古くから栄えている場所で、古墳や遺跡もあります。そんな中で、21世紀の新しい街づくりの事例として2万人が通うキャンパスを環境に配慮しながら、開発ができたのはすばらしいことだと思います。

21世紀初の大規模な国立大学の移転にふさわしいキャンパスが出来たのではないかと感じています。渡邊先生は、新しい伊都キャンパスの建設時にどのようなことに注目しておられたのでしょうか。

渡邊 伊都キャンパスは、従来の校門があり、周りに堀があるような構内型のキャンパスではありませんね。自然と調和し、開かれたキャンパスとして、私はキャンパス内を歩く人と建物との関係をどのように位置づけるのかを考えました。人の視野に入るのは地表から十数メートルです。この壁面に関しては、歩行者のことを考えて造つてほしいと建築家の皆さんに強くお願ひいた覚えがあります。

もう一つ、建物の中に人工的な「外」つまり、吹き抜け空間を連続して造りました。この東西に長い施設の低層部に連続する「吹き抜け」のデザインは、伊都キャンパスの

建物群の一つの特徴です。学生たちが複数の施設を行き来し、身体的に自由に移動することで、他の分野を自然なかたちで見ることができ、オープンで枠にとらわれない考え方方が身につくことを狙つたものです。

安浦 「枠にとらわれない」ということで

言うと、伊都キャンパスはどの学問分野も繋がりやすい環境を実現したと感じます。これまでの大学では、ひとつ屋根の下で異なる分野の研究を進めるのは、特別なケースでした。伊都キャンパスでは建物を学部や学科で分けることはせず、工学系、生物系、化学系、情報系などさまざまな分野を研究する学生や職員が同じ建物で共存しています。つまり、伊都キャンパス全体が相互に乗り入れする新しいスタイルの学問に対応しやすくなっています。例えば、第4の科学的手法と言われるデータサイエンスは、工学、生物学だけでなく人文社会科学でも使われます。このような時代に応じた分野横断的な研究がまさに伊都キャンパスで始まります。まろうとしています。

渡邊 安浦理事がおっしゃるように、オープンな空間であるからこそお互いに協力し、刺激し合いながら研究室の関係も生まれていますよね。新しい研究者同士の関係をキャンパスがつくったと言つてもいいでしょう。良い作用が生まれることを大いに期待しています。

1978年京都大学大学院工学研究科修了。1991年九州大学大学院総合理工学研究科情報システム学専攻教授に就任。2008年10月より九州大学理事・副学長。現在は、キャンパス移転・整備、情報公開担当。専門は、情報工学。福岡アジア都市研究所理事長を兼務。



繋がっているからこそ

学生や教員同士で刺激し合える

—全ての施設が直線的に繋がっていることで、多分野が融合しやすくなっていますね。



安浦 さらに大切な事は、すべての教員室のドアをガラス張りにしたこと。基本的に隣の研究室や、別の階でも、違う分野の学生や教員が室内で何をしているのか分かるようにしています。ウエスト2号館の10階は足元から天井まで全てガラス張りで

す。どんな実験やディスカッションをしているのかが分かるよう、オープンな環境を作っています。大学改革が進み、小講座制からさまざまな専門の教員が所属する大講座制に移行して准教授や助教も同じ立場でひとりの研究者と見なされる時代になっています。プロジェクト別にいろんな教員が集まる際にも、オープンな空間だと進めやすいですよ。

渡邊 以前は囲い込むことで専門性を見出そうとしていましたからね。

安浦 九州大学は杉岡総長時代に全国で初めて「学府・研究院制度」を導入し、大学院の研究・教育組織である「研究科」を、大学院の教育組織としての「学府」と、教員の所属する研究組織である「研究院」とに分離することで相互に柔軟な連携を図りながら、それぞれの必要に応じて独自に再編できるようにしたんです。

渡邊 今のようなお話を初めて聞いたときは「そんなことがあり得るのか」と思っていました。どうやって型にはまらず自由に動ける仕組みを取り入れ、他分野の人たちと関わっていくのか、対応に悩んだ記憶があります。その答えの一つが吹き抜け空間だったように思いますね。

す。どんな実験やディスカッションをしているのかが分かるよう、オープンな環境を作っています。大学改革が進み、小講座制からさまざまな専門の教員が所属する大講座制に移行して准教授や助教も同じ立場でひとりの研究者と見なされる時代になっています。プロジェクト別にいろんな教員が集まる際にも、オープンな空間だと進めやすいですよ。

安浦 伊都キャンパスの複数の施設は、ユニバーサル・レベルによって一つに繋がっています。研究チームやプロジェクトの規模が大きくなり、部屋が足りなくなったら新しいスペースを割り当てればいい。小さくなつたら部屋は余るので回収すればいい。キャンパス全体でスペースを最適に活用するという

伊都キャンパスでは実施できているのです。しかし、課題もあります。十数年間で一気に建てたことで、将来のメンテナンスの負担が大きいと思っています。20年後には中小規模の改修、40年後には大規模改修の需要が一斉に起ります。また、大きな吹き抜け空間を維持するため、研究している

地熱などの自然エネルギーをうまく取り込めないかと考えています。キャンパス自体が新しい街、都市づくりのための「新しい実験場」であり、解決するための研究テーマを与えてくれます。新しい研究分野を生み、若い人材が課題を持つて、自分たちで解決していく。外との壁も内での壁もない。このキャンパスの考え方今までの日本の大学キャンパスの考え方を大きく変えていくでしょう。



連続する吹き抜け空間が特徴的なキャンパス

充実した「大学街」へ

まち

——伊都キャンパスの移転を終えて、今後の展望をお聞かせください。

渡邊 大学は都市の成長拠点の一つです。九州大学は福岡市・糸島市の大重要な成長拠点があるので、都市との一体化を図るべきなのです。まずはマストランジットの問題が出てきます。ずっと大学キャンパスとJR・地下鉄との関係を懸念していました。都市の成長拠点であるなら、交通機関で結ばれていないと福岡市にとつてもマイナスです。

大学が「新しい知識創造の場」として、また、グローバル対応のポテンシャルの高さから「国際交流の拠点」として重要な場所であることを、行政や経済界の方に再認識してもらい、改めて大学との一体化を考えていただけるよう訴えてほしいですね。

安浦 大学周辺の生活環境も重要だと思います。生鮮食料品を購入できるスーパー・マーケットや、お酒が飲めるお店も必要で



たいと思っています。

渡邊 学生が住む、居住環境としてはどうでしょうか。地形に沿う連なった教育施設群、研究施設群、そして周辺の自然環境。そこに、留学生を含めた学生の居住空間を並行して設置できなか。次のマスター

プランとして、ぜひ検討をお願いしたい。

安浦 はい、学生の住居の整備は引き続き行っていく予定です。今は、主に大学の周辺に住むのは学生ですが、教員たちにも近くに住んでほしいですね。学研都市駅に続く道沿いには学生用のアパートが多く建てられています。奥の桑原地区はまだほとんど開発されていません。私は、今里山の風景を残しながら高級住宅街にしてほしいと思っています。学生が、「今は元岡に住んでいるが、将来自分も教授になつたら桑原の高級住宅街に住みたい」と思うような憧れの場所になればおもし

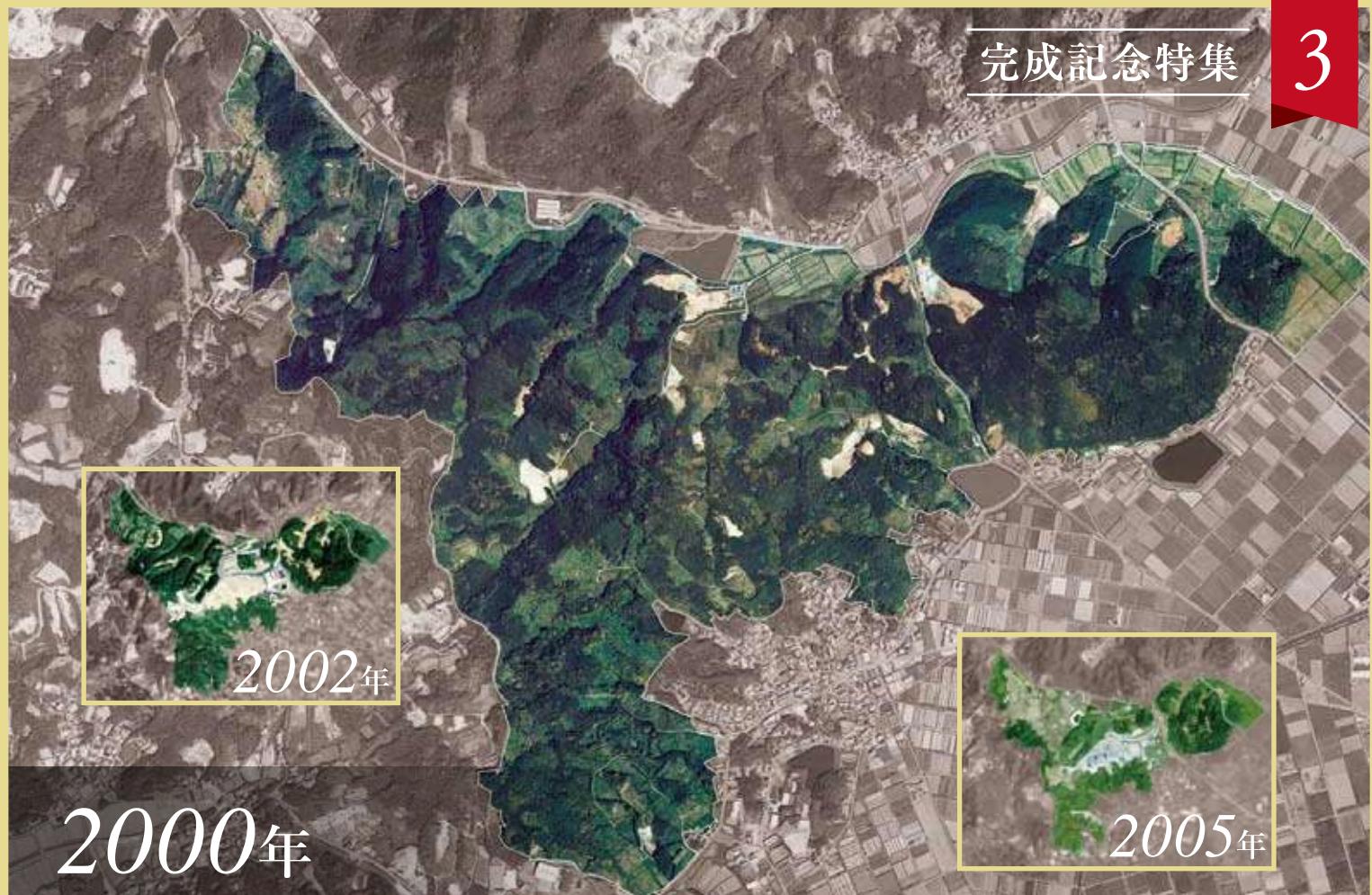
ろいと思いませんか。これは個人的な希望ですが、本当の意味での「大学街」にしていきたいのです。

渡邊 キャンパスはもともと、新しい知識を学び、ものの考え方を勉強する学生が集まるための場です。学生の要望に応え

るために「研究開発の拠点」が必要になります。そこは創造していく場でもあります。同時に「学生の居住の空間」でもあります。この2つの意味が大きい。九州大学の移転はこの2つが同時にかなう場所になるのだと捉えています。



椎木講堂ロビーにて 右から渡邊委員長、安浦副委員長、坂井教授



2000年

2005年

移転決定から完了までの道のり



2008年

2014年

2018年

移転事業と歴代総長

27年という長い年月を経て完了を迎える統合移転事業には、第18代から第23代までの6名の総長が携わってきました。

1991年 移転決定

1993年 新キャンパスのエリア決定

1994年 「新キャンパス基本構想0次案」を決定

1998年 「造成基本計画」を決定

1999年 「アカデミックゾーン内のゾーニングと移転順序」を決定

2001年 「九州大学新キャンパス・マスタープラン2001」を決定

2003年 九州芸術工科大学と統合

2004年 国立大学法人化

2005年 工学系移転
伊都キャンパス誕生

2009年 全学教育移転
六本松キャンパス閉校

2011年 九州大学創立百周年

2015年 理学系移転

2018年 共創学部を新設
人文社会科学系、農学系、中央図書館移転
移転完了



第18代 学長

高橋 良平

在任期間
1986年～1991年



第19代 総長

和田 光史

在任期間
1991年～1995年



第20代 総長

杉岡 洋一

在任期間
1995年～2001年



第21代 総長

梶山 千里

在任期間
2001年～2008年



第22代 総長

有川 節夫

在任期間
2008年～2014年



第23代 総長

久保 千春

在任期間
2014年～現在に至る

移転歴

1991(平成3)年から造成基本計画策定、埋蔵文化財調査を経て策定された「九州大学新キャンパス・マスタープラン2001」に基づき、2005(平成17)年の工学系から始まった移転第Iステージ、六本松キャンパスが移転した第IIステージ、理学・農学・人文社会科学系と中央図書館を含む箱崎キャンパスが完全移転する第IIIステージまで、27年にも及ぶ移転の沿革を、写真とともに振り返ります。

※1970年～1991年「総長」の呼称を廃止、「学長」のみを使用

1991年10月 移転決定

施設の老朽化と狭隘化、キャンパスの分散状態による専攻教育と全学共通教育の分離、箱崎キャンパスにおける航空機騒音や事故再発の懸念など、これらの課題を解決する

ため、1991(平成3)年10月、福岡市西区元岡桑原地区への移転が決定しました。最終的に、六本松、箱崎の両キャンパスと原町農場が伊都へ統合移転することになりました。

2000年4月 学府・研究院制度導入

2000(平成12)年4月の「全学大学院重点化」(大学院に、より重点をおいて教育研究組織を構成すること)の完了とともに、全国でも初めての「学府・研究院制度」を導入しました。大学院重点化に伴って、教員の所属は従来の学部から大学院に移り、さらに大学院を教育組織と研究組織に分離することにより、学府・学部教育への研究院の枠を超えた教員の多様な参画が可能となりました。

2001年3月

九州大学新キャンパス・マスタープラン2001決定

「九州大学新キャンパス・マスタープラン2001」は、教育と研究の理念に基づく諸活動の実践空間である伊都キャンパスの実現に向け、動線、オープンスペース、施設などキャンパス空間を構成する要素に基づく伊都キャンパスの骨格形成の方針を示したものです。この新キャンパス・マスタープランの策定には、「新キャンパス計画専門委員会」の下、各テーマに基づく

ワーキンググループおよびプロジェクトチームを編成し、約200名の教職員が参画しました。この新キャンパス・マスタープラン2001を元に、より詳細な地区基本設計を行い、専門分野の特性を生かした施設の計画、設計、そして空間デザインについて検討し、九州大学の教育と研究を支えるさまざまな施設の整備を行ってきました。



伊都キャンパスは実証実験キャンパス

伊都キャンパスを、「未来社会の実証実験キャンパス」として、エネルギーと情報という重要なテーマを社会面から捉え、まず、水素エネルギーと多目的ICカードを取り上げました。水素に関しては最先端の世界的な拠点が形成されました。水素ステーションで水を電気分解して水素ガスを製造・貯蔵し、供給した燃料電池自動車は、大学の公用車として学内を走っています。ICカードは、2006(平成18)年から導入され、学生証・職員証としてIDや認証、設備・施設の鍵、入構管理、電子マネーとして進化し続けています。

2003年 10月 九州芸術工科大学と統合

2003(平成15)年10月1日、九州大学と九州芸術工科大学が統合し、九州大学新たに芸術工学部、芸術工学府、芸術工学研究院が誕生しました。同日の午後には、九州大学五十周年記念講堂において、来賓、名誉教授、教職員など合わせて約800名が出席して統合記念式典が盛大に催されました。



2004年 4月 国立大学法人化

2003(平成15)年に制定された国立大学法人法に基づき、2004(平成16)年4月1日、全国の国立大学が法人化され、九州大学は、国立大学法人九州大学となりました。

同日には、第1回の役員会と教育研究評議会が、4月2日には第1回の経営協議会が開催され、新しい九州大学が動き出しました。

2005年 2月

ビッグオレンジ開館

伊都キャンパスで、広く社会に向けて情報を発信するための施設「Big Orange(ビッグオレンジ)」が、2005(平成17)年2月にセンターゾーンにオープンしました。

ビッグオレンジは、タウン・オン・キャンパスWGとイーストセンターゾーンWGの合同でセンター地区基本設計を検討した際に提案され、具体的な内容を関係者と事務局で検討し、学内措置により実現したものです。

名称のビッグオレンジは、新キャンパスが建設されている丘陵が、かつてみかん園であったことに由来しています。



2005年 9月 JR九大学研都市駅開業

JR九州の新駅「九大学研都市駅」が2005(平成17)年9月23日に開業。同駅は筑肥線の今宿駅と周船寺駅のほぼ中間に設置され、北口駅前広場には、バスやタクシー乗り場も整備されました。同年10月1日に行われた完成披露式典には、九大関係者や地域の代表ら約150人が出席しました。



(写真提供:九州大学文書館)

2005年10月・2006年10月

第Iステージ 工学系移転(ウエスト3・4／2号館)

2005(平成17)年8月8日「工学系出発式」が開催され、新キャンパスへの引っ越し始まりました。ウエスト3号館、4号館が竣工し、工学系の一部(機械航空系と物質化学系)が実験施設群を伴って第1陣として移転。新キャンパスの名称は公募し、古代の伊都国にちなんで「伊都キャンパス」と命名されました。2006(平成18)年7月にはウエスト2号館、ドミトリーパークも竣工し、10月には工学系第2陣(地球環境系と電機情報系)の移転が行われ、第Iステージでは学

生・教職員約5,200人が移転しました。

完成した工学系施設の特徴は、九州大学が全国に先駆けて実現した「学府・研究院制度」の理念を空間的に表現したことです。建物の低層部に「学部」の空間を、中高層部に「学府(大学院生が所属)・研究院(教員が所属)」の空間を配置することにより、講義ごとに移動すること多い学部学生の動線をスムーズにするとともに、中高層階に位置する大学院の静謐な研究環境を確保しました。



2006年1月

九大あかでみくらんたんオープン

2006(平成18)年1月30日、伊都キャンパスに福利厚生施設「九大あかでみくらんたん」がオープンしました。



「九大あかでみくらんたん」は、伊都キャンパ

スの学生・教職員が、より心豊かなキャンパスライフを送れるよう、おいしい飲食物を提供し、気軽に安心して集える憩いの場を提供することを目的とし、さらには地域住民の方々との交流の場としても活用されてきました。

2009年9月

水素ステーション運用開始

水素ステーションは、水を電気分解して水素ガスを製造・貯蔵し、燃料電池自動車に供給する実証実験施設であり、2009(平成21)年9月に運用を開始しました。

二酸化炭素を全く発生しない次世代型水素ステーションの開発を目指し、太陽光発電や風力発電による水素製造の研究開発を行っています。



2009年4月

センターゾーンがオープン 第IIステージ 六本松移転(センター1・2号館)



2009(平成21)年4月、伊都キャンパスのセンターゾーンがオープンしました。

都市と共に栄え、市民の誇りとなる大学を目指す九州大学伊都キャンパスの顔となるメイン・エントランスとして来学者や新入学生を受け入れるゾーンです。同年9月には六本松キャンパスの機能が全て移転しました。第IIステージでは、学生・教職員約5,600人が移転しました。

センターゾーンには学部1・2年次を対象とした基幹教育の場となるセンター1・2号館、総合体育館や課外活動施設、大学院の研究教育棟、食堂などが入った生活支援施設(ビッグさんど)、学生寄宿舎(ドミトリー)などがあります。

有川総長(当時)は「六本松キャンパスから伊都キャンパスへの移転は、分断状態にあった全学教育(現:基幹教育)と専門教育を統合するまでの重要な過程の一つであり、本学の悲願でもあった。」とオープン記念式典の挨拶で述べました。その後、2014(平成26)年に基幹教育がスタートしました。

銘板(サイズ:横5,000mm×縦1,600mm)

書道家の柿沼康二氏が揮毫した“九州大学”的文字を、水磨き仕上げの黒御影石に職人の技で力強く、そして丹念に彫り込んだものです。センターゾーンの玄関口に設置されており、来学記念の撮影場所としても人気です。

2009年10月

稻盛財団記念館オープン

稻盛財団記念館は本学の百周年記念事業の一環として、財団法人稻盛財団(稻盛和夫理事長)から、伊都キャンパスに教育研究や国際交流および地域交流を推進する中核拠点としてご寄贈いただきました。



1階には京都賞など、稻盛財団の活動を紹介する「稻盛財団ライブラリー」と、国際的な学術・文化交流の場「稻盛国際ホール」があり、2階から4階には「稻盛フロンティア研究センター」があります。稻盛フロンティア研究センターへは、本学が百周年を迎える際に、京セラ株式会社から「稻盛フロンティア研究センター奨学金」をご寄附いただきました。

2011年5月 九大創立百周年

2011(平成23)年に百周年を迎えた九州大学は、東日本大震災の影響を考慮し、2012(平成24)年5月12日に創立百周年記念式典を挙行しました。

記念式典には、今まで本学にご支援をいただいた方々や百周年記念事業にご支援をいただいた方々、本学卒業生、名誉教授、教職員、学生ら約1,400人が参列しました。





2012年5月

山川健次郎初代総長の胸像を設置

創立百周年が間近になった2010(平成22)年11月、山川健次郎初代総長の出身地である会津若松市から胸像を贈呈いただきました。

その後、胸像を伊都キャンパスのセンターゾーンに設置し、2012(平成24)年5月に創立百周年記念事業の一環として除幕式が行われました。胸像の台座には「修養が広くなければ、完全な士と云う可からず」という当時の九大生に対する山川初代総長の訓示が記されています。



2014年3月

椎木講堂完成

椎木講堂は、三洋信販株式会社創業者の故・椎木正和様が、世界最高水準の教育研究拠点を目指す本学の基本理念に共感し、人類社会の持続的発展に貢献する優れた人材が数多く育っていくことを願い、本学の創立百周年を機にご寄贈されたものです。

本講堂は全体が直径100mの円柱形でメインのコンサートホールと管理棟からなっています。最大で約3,000人収容できるホールは、本学の入学式や学位記授与式をはじめ各種学会や大規模イベントなどに活用されています。

2015年10月

第IIIステージ 理学系移転(ウエスト1号館)

2015(平成27)年10月1日、理学研究院、数理学研究院、マス・フォア・インダストリ研究所は、新たに整備されたウエスト1号館に移転しました。

ウエスト1号館は、センターゾーンに面するA棟から工学系地区と繋がるE棟まで、講義室、実験室、情報学習プラザ、リフレッシュスペースなどを配置し、教育研究および学習環境を充実させています。

ウエスト1号館の整備により、センターゾーンからウエストゾーンに至るアカデミックゾーンが繋がり、理学研究院、工学研究院、システム情報科学研究院をはじめとする関係部局が近接することになり、

部局間の連携強化による、さらなる教育研究の発展が期待されています。



2018年 4月 共創学部を新設

平成29年3月に文部科学省に対し、平成30年4月の設置認可申請書を提出し、同年8月に認可が下りた。昭和42年の歯学部以来、半世紀ぶりとなる12番目の学部が誕生した。本学独自の21世紀プログラム教育の約17年間の実績を踏まえた、徹底した文理融合教育となっている。



2018年 9月

人文社会科学系(イースト1・2号館) 農学系(ウェスト5号館)、中央図書館移転

ウェスト5号館は、農学研究院が入るウェストゾーンの主要施設であり、イースト1・2号館は、比較社会文化研究院、地球社会統合科学府、言語文化研究院、人文科学研究院、人間環境学研究院、教育学部、法学研究院、経済学研究院、統合新領域学府など、6研究院、6学府、5学部が入るイーストゾーンの主要施設です。第IIIステージでは、約7,900人が移転し、学生・教職員合わせて約19,000人が集結しました。

新たな中央図書館は国内最大級で約350万冊の収蔵冊数を誇っており、内部に約150万冊収蔵可能の自動書庫と、可動式の机・椅子を配置したフレキシブルな学習空間であるアクティブ・ラーニング・スペースを有し、さまざまなサービスを提供します。



ウェスト5号館



椎木講堂に隣接する中央図書館と、その上に設けられたイーストゾーン

石ヶ原古墳跡展望展示室

イーストゾーンの総合教育研究棟の敷地には、かつて石ヶ原古墳と呼ばれる前方後円墳が所在していました。石ヶ原古墳については2001(平成13)年3月1日の評議会において、単純な記録保存ではなく、「現状保存に可能な限り近いかたちでの対処法を検討する」という答申が出されており、これに基づき、石ヶ原古墳が存在した場所に建設されている総合教育研究棟の最上部に古墳の記憶の継承を図る目的で展望展示室を整備し、古墳からの眺望を確保しつつ、伊都キャンパス内の遺跡の概要についてのガイダンス機能を提供します。



六本松キャンパス跡地

1921(大正10)年に旧制福岡高等学校として設置され、九州大学の教養部等として利用されていた六本松キャンパスは、2009(平成21)年、88年の歴史に幕を下ろしました。2017(平成29)年には複合ビル「六本松421」へと姿を変え、本学の法科大学院もこのビルの一部に移転しました。また、裁判所、検察庁および弁護士会館が順次移転しており、本学ではこの跡地で全国でも例のない法曹三者と密接に連携した法曹養成教育を目指しています。



六本松421

提供:JR九州、撮影:(株)エスエス

青陵乱舞の像

かつて六本松キャンパスの正門そばに立っていた「青陵乱舞の像」。旧制福岡高等学校同窓会である青陵会が、本学教養部に寄贈した銅像であり、六本松キャンパスの廃止に伴い一時撤去されました。キャンパス跡地は、「青陵の街」をコンセプトに再開発が進められ、街の歴史を引き継ぐシンボルとしてキャンパス跡地に「青陵乱舞の像」が再設置されました。



提供:JR九州、撮影:(株)エスエス



六本松421に隣接する福岡高等裁判所

箱崎キャンパス跡地

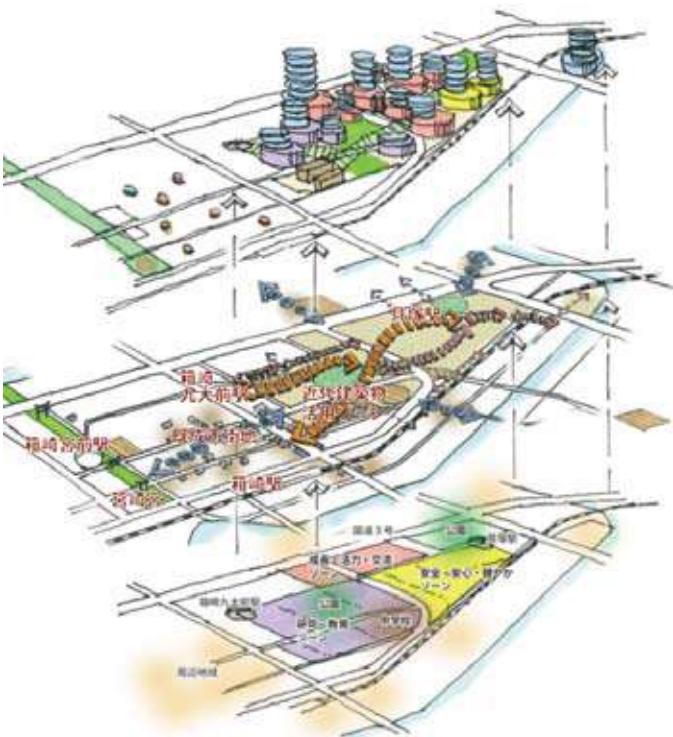
1911(明治44)年の九州帝国大学創立以来、九州大学は100余年を箱崎キャンパスと共に歩んできました。移転にあたっては、「箱崎キャンパス跡地利用協議会」を福岡市と九州大学で設置し、移転後の箱崎キャンパスの跡地について地域住民代表や識者の意見を聞きながら検討を進めています。

2018(平成30)年7月には、箱崎キャンパス跡地などに、良好な市街地形成と新たな都市機能を導入するため、街づくりに共通する整備ルールや将来の絵姿などを示すことを目的として、「九州大学箱崎キャンパス跡地グランドデザイン」が策定されました。街づくりのキーワードは、「成長・活力・交流」、「安全・安心・健やか」、「教育・研究」、「歴史文化」、「環境・エネルギー」です。

箱崎千年、大学百年の歴史を大切にしながら、地域の発展に貢献した先人たちの思いを受け継ぎ、次の世代に繋いでいくような、「100年後の未来に誇れる街」を目指した街づくりが進められています。



今後も箱崎キャンパスに残る旧工学部本館と本部第一庁舎



グランドデザイン

移転に携わっていただいた関係者の皆さん

※順不同、敬称略

一 箱崎エリア

- 箱崎校区自治協議会
- 東箱崎校区団体協議会
- 笠松校区自治協議会
- 松島校区自治協議会
- 九大跡地利用4校区協議会
- 草ヶ江校区自治協議会
- 草ヶ江校区まちづくり協議会
- 福岡市西部7校区
(北崎、今津、元岡、周船寺、玄洋、今宿、西都)自治協議会
- 九大移転対策協議会(元岡・桑原)
(泊一、泊二、泊三、油比、新田)
- 志摩東部まちづくり推進協議会
(馬場、松隈、桜井東)
- 福岡市西区自治協議会
- 元岡商工連合会
- 九州大学学術研究都市推進協議会
- 九州大学学術研究都市推進機構
(OPACK)

マスタープランおよび 各地区基本設計関係者

一 関係自治体

- 福岡県
- 福岡市
- 糸島市(旧前原市、旧志摩町、旧二丈町)
- 糟屋郡粕屋町
- 唐津市
- 会津若松市

一 関係省庁

- 黒川紀章・日本設計共同体
- (株)黒川紀章建築都市設計事務所
- 日本設計(株)
- (株)石本建築事務所
- 椎木正和氏
- (公財)稻盛財団
- ジョナサン・K.S・チョイ氏
(新華集団会長、香港中華總商工会会長、
ジョナサン・K.S・チョイ基金会会長)

一 寄附・寄贈者

一 伊都エリア

- 黒川紀章・日本設計共同体
- (株)三島設計事務所
- ササキアソシエイツ

一 経済界

ほか、ご寄附・ご寄贈くださった皆さま

- (一社)九州経済連合会
- 福岡市地下鉄
- 九州旅客鉄道(株)
- 昭和自動車(株)
- 西日本鉄道(株)
- 文化庁
- 環境省
- 経済産業省
- 財務省
- 国土交通省
- 文部科学省
- 玄洋、今宿、西都
- 前原北部まちづくり推進協議会
(泊一、泊二、泊三、油比、新田)
- 志摩東部まちづくり推進協議会
(馬場、松隈、桜井東)
- 福岡市西区自治協議会

長い期間にわたり、大変多くの方々にご支援・ご協力いただいておりますので、

ここではすべての方をご紹介できておりません。紙面に収まり切れていない皆さんにも、感謝申し上げます。

記者会見レポート



記者会見の様子

世界最高峰の昆虫分類学や
カイコ研究で産業界や社会へ貢献を

「昆虫科学・新産業創生研究センター」始動! 昆虫ベンチャー 「KAICO(カイコ)株式会社」も

農学研究院 教授
附属昆虫科学・新産業創生研究センター センター長
日下部 宜宏 くさかべ たかひろ



「昆虫科学・新産業創生研究センター」は、平成30年4月に農学研究院、比較社会文化研究院、経済学研究院、総合研究博物館、熱帯農学研究センターの5部局が中心となって、九州大学農学研究院附属施設として設置されました。同時に、九州大学のカイコバイオリソースを活用し、研究試薬・ワクチンなどへ商業利用する事業を展開する昆虫ベンチャー「KAICO(カイコ)株式会社」も起業しました。

昆虫は、4億年以上前に地球上に誕生してから最も繁栄し続けている生物で、現在でも、報告されている生物種の半数以上を占めています。翅(はね)を得し、初めて大空を支配したのも昆虫ですし、植物が綺麗な花を咲かせるのも、昆虫を呼び寄せて受粉を助けてもらうためです。このように昆虫は、他の生物の進化に大きな影響を与え続けており、現在でも、地球温暖化や物流のグローバル化に伴い、失われつゝある生物多様性を理解する上で最も重要な構成要素となっています。また、マラリア、

日本脳炎、デング熱など昆虫が媒介する人畜共通感染症のような人種が直面している問題もあります。ところが、この分野である昆虫分類学や衛生研究室が激減し、危機的な状況にあります。

昆虫科学・新産業創生研究センターは、日本最大の昆虫標本や世界唯一のカイコ突然変異系統コレクションを持つ九州大学が、その昆虫リソースを結集して問題解決にあたり、温暖化や侵入生物による害虫管理、昆虫媒介性人畜共生物多様性の動態分析、農業における環境と共生できる病害虫管理、昆虫機能を活用した産業創診断薬開発などの予防対策、昆虫機能を活用した産業創生などの研究を推進する国際的な研究教育拠点を構築していくります。また、昆虫食やバイオミメティクス(生物模倣技術)など、KAICO(カイコ)株式会社に続く昆虫科学イノベーションを創出し、研究成果の社会還元を実現していく

日下部先生からの一言

昆虫科学・新産業創生研究センターは、九州大学の昆虫リソースを異分野の方にも気軽に使っていただけるような研究拠点形成を目指しています。これまで昆虫を研究材料とされてこなかった研究者にも、アイデアを持って九州大学に行けばなんとかなると思っていただけるような研究の場の提供を目指します。



問い合わせ先: 昆虫ゲノム科学研究所

TEL: 092-802-4570 E-mail: kusakabe@agr.kyushu-u.ac.jp



カイコ研究施設の様子



- 3 PM2.5/SPRINTARS予測システムが提供している予測情報。報道機関、自治体など多くの場面で利用されています。
- 2 アンモナイト／イギリスのジュラ紀前期の地層中に密集するArnioceras semicostatum。水温の急変や酸素欠乏などの原因で大量死した同一種の個体が密集して産出します。
- 1 什器(じゅうき)／7月末まで箱崎キャンパスで開催していた、これまでに救済してきた戦前木製学校家具の展示。多くの人は、今回のように示されて初めて、その価値を再確認することとなりました。



※クラウドファンディングとは、インターネットを利用して自らの夢やアイデアを発信し、共感を得た方々からの資金協力を受け、その夢やアイデアを実現させる仕組みです。
※以下に記載の3プロジェクトに加え、新たに4プロジェクトについて、支援の受付を開始しました。

次の百年後の世界、未来、夢を育てる皆さまのお力添えを心よりお待ちしております。

九州大学はREADYFOR株式会社と提携し、クラウドファンディングを開始しました。

社会の変革を担う人材の育成やイノベーションの創出を担う本学には、夢のあるアイデアや未来を創造するアイデアが無数にあります。

社会とつながる新たな試み

クラウドファンディングを介して、未来・創造をカタチに！

READYFOR株式会社 代表取締役

米良 はるか めら はるか

- 1 応用力学研究所 教授
竹村 俊彦 たけむら としひこ
- 2 総合研究博物館 教授
前田 晴良 まえだ はるよし
- 3 総合研究博物館 准教授
三島 美佐子 みしま みさこ

1 PM2.5予測システムを今後も継続運用していくために

竹村教授自ら開発した大気中の微粒子の動態を計算するソフトウェア「SPRINTARS」を用いて、PM2.5や黄砂などの濃度予測を毎日実施し、情報を公開するという運用をほぼ1人で10年以上継続してきました。非常に多くの報道機関・自治体なども予測情報を利用していることから、今後も安定的に運用するため支援を募りました。

2 誕生から絶滅まで。3億4000万年分のアンモナイト化石九大に集結

九州大学は、白亜紀アンモナイトの国内最大のコレクションを擁する国際的な研究拠点ですが、白亜紀以外の化石コレクションは残念ながら貧弱です。今回のプロジェクトは、九大に来ればアンモナイトの全体像がわかるように、さまざまな時代・地域のアンモナイト化石を收集し、今後の研究・教育に役立つことを目的として実施しました。

3 歴史的な木製学校家具を救え！九太什器保全活用プロジェクト

九州大学総合研究博物館は、キャンパス移転や建物建て替えに伴い更新された、戦前の帝大時代のものを含む歴史的な木製家具類を救済・保存・活用しています。今回は、最終移転で更新される木製什器を、最大限救済するための運搬費の支援を募りました。古いモノの在り方や今ある仕組みを再考するきっかけにする事も目的の一つでした。

三島先生からの一言

本プロジェクトが成立し、他に類のない本学の貴重な木製什器が救済可能となったことに安堵しています。今回の募金活動を通して頂戴した大きな反響、暖かな励ましとご支援、そして日々の教育・研究や博物館活動からだけでは得られない沢山の気づきや課題は、大いなる宝であるとともに、今後プロジェクトの更なる発展の礎(いしづえ)になると確信しています。

前田先生からの一言

アンモナイトは示準化石としてだけでなく、理論形態や過去の地球温暖期の指標としても注目されています。しかし、化石の実物を手に取って観察できる場所は国内では稀です。教育でも研究でも一番重要なのは実物同士の比較、すなわち「virtual」より「actual」です。標本の一部は、来館者が直接手で触れる状態で公開展示します。

竹村先生からの一言

SPRINTARSは、微粒子による気候変動を解明する研究のために開発してきました。PM2.5の日々の予測の運用はボランティア活動として継続してきましたが、本務である教育・研究活動に支障を来すようになってきました。クラウドファンディング終了後もご寄附の受付は継続しますので、よろしくお願い致します。(URL : <https://sprintars.riam.kyushu-u.ac.jp/index.html>)

各プロジェクトの内容

問い合わせ先：財務部財務企画課総務係 TEL:092-802-2335 E-mail:zassomu@jimu.kyushu-u.ac.jp
九州大学クラウドファンディング特設サイト(READYFOR株式会社 提供サイト)https://readyfor.jp/lp/kyusyu_univ/index.html



記者会見レポート



写真2 被災地の現状

九州北部豪雨災害から1年

「九州大学災害調査・復旧・復興支援団」最新報告

工学研究院 附属アジア防災研究センター センター長

三谷 泰浩 みたに やすひろ



写真1 復興新聞

記者会見の様子

昨年7月に発生した九州北部豪雨災害から1年が経過しました。九州大学災害調査・復旧・復興支援団では、学術的な支援、行政への支援、住民への支援という3つの大きな柱の下、災害メカニズムの解明、復興計画の策定支援、地域住民との会議などをまいりながら、朝倉市、東峰村への復旧・復興支援を続けてまいりました。

その成果として、各種学会などの報告会やシンポジウムを数多く実施し、災害のメカニズムや災害からの復旧の状況などについて広く情報発信を行ってきました。また、研究に関しては、論文や学会発表への投稿、さらには、学生の卒業論文や修士論文といった形でまとめてきました。

また、行政・住民と協働で朝倉市および東峰村の復興計画をこの3月に策定しました。策定に際しては、復興計画策定委員会への参画のみならず、地域住民協議会や集落会議に支援団として参加して、行政と住民との仲介役となり、復興計画の策定に寄与することができました。この住民とのやりとりの

結果は復興新聞という形でまとめられました。（写真1）
被災地の今
 被災地では、梅雨時期を前に二次災害対策を行いました。ハード面の対策として、災害以前の河道状況がほぼ復活し、土砂の流出が著しい所には仮設の土砂止めなどを設置するとともに、仮の堤防が壊れないよう補強がなされました。（写真2）また、ハード面の対策だけでなく、ソフト面の対策としては、避難に関する情報提供の在り方の見直しや河川を監視するカメラの設置が進められ、できるだけ早く危険を把握し、住民に対して情報提供を行うための対策がとされました。しかしながら、重機を入れない山地部にはまだまだ流木や土砂が残置されており、少量の雨でも土砂流出が発生するなど、必要がある箇所もありました。

今後の活動について
 今後も支援団としての基本的な活動方針は変わりませんが、より「復興」を強く意識した活動を続けていく予定です。特に学生に対する教育の分野を

より復興のための研究に移行したり、住民が復興に向けてできるだけ早く取り組めるようクラウドファンディングを活用した支援、地域コミュニティが復活できるような支援などを行っています。また、支援団の成果報告会の開催も企画しています。

三谷先生からの一言

被災地では、災害が発生してから、鋭意、復旧が進められてきました。しかし、実際には、本格的な復旧には全く至っていません。今後は、復興に向けて地域と行政が一丸となって取り組んでいく段階になります。支援団としてもこの地域の取り組みに積極的に参画しながら、被災地の将来について考えていきたいと思います。

問い合わせ先:三谷泰浩 TEL:092-802-3399
E-mail:mitani@doc.kyushu-u.ac.jp





アクティブな女子大生を紹介

ロボット競技 日本代表として 7月に世界大会へ! 小説出版も手がける

統合新領域学府 修士2年

古澤 美典 ふるさわ みのり



チームメイトの工学部4年 吉田貴太さんと同3年 神田敬祐さんと

日本人チームが出場するの
は史上初となります。今回日
本代表に選ばれたのは、大学生
や高専生、社会人まで、民間の
エンジニアで結成された
「FUKUOKA NIWAKA」とい
うチームです。熟練の加工技術
から、最新鋭のAI（人工知
能）やドローンまで、さまざま
なスキルを持った技術者がロボッ
ト製作に励んでいます。

私は、「」の「ROBOMASTER」
でメカニックとオペレーター（操
縦者）を担当しました。オペレー
ターは試合の勝敗を左右する
重要なポジションです。

「ロボジョ」の活動

私が「ロボジョ」となったきっかけは、幼少期から抱いていたものづくりへの強い好奇心と、高校の部活動でのロボット製作にありました。

九州大学入学後は、ロボコン
チームKURTのメンバーとして
3度のN H K 学生ロボコン全国

ロボット競技出場
平成30年7月、世界最高
レベルのロボットバトル
「ROBOMASTER」世界大会
に日本代表として私、古澤美典
が出席しました。



平成30年7月の世界大会での集合写真／中国深圳（シンセン）にて

トであるレゴ マインドストーム
「書く♪描く♪楽しい！ロボラ
イター」の監修・開発に取り組
みました。さらに、空き家を活
用した工房とシェアハウスの創
設や次世代ものづくりプロジェ
クト創立のほか、第13回出版甲
子園決勝大会進出の後、大手
出版社の元でロボコンを題材に
した小説の執筆を行いました。
ただロボットを作るだけでは
なく、その楽しさをワークショップ
などを通して市民の皆さんに
発信し、幅広いものづくりの場
を提供することにも取り組ん
でいます。

古澤さんからの一言

日々の学び、研究、課外活動、遊び…ここまでアクティブなロボジョ的大学生活を送ることができているのも、家族や友人、関係者の皆さまはもちろんのこと、なによりも九州大学のさまざまな制度や先生方の手厚いご支援、ご協力があってこそです。本当にありがとうございます。ROBOMASTERでは、200チーム中で国際リーグ準優勝、そして世界大会本戦ベスト16に入ることができました、今後の活動についても暖かく見守ってもらえたなら嬉しく思います。

問い合わせ先：古澤美典 E-mail: 2FS17027P@s.kyushu-u.ac.jp



第13回出版甲子園「ロボジョ。」

KYUDAI TOPICS

Topics

01

「日本ジョナサン・KS・チョイ文化館」開館記念行事を開催

本学伊都キャンパスのセンターゾーンに「日本ジョナサン・KS・チョイ文化館」が完成しました。それを記念して、2018年7月20日(金)、同館において「開館式」および「日本ジョナサン・KS・チョイ文化館落成記念シンポジウム～『つながる』アジア・『つながり』がうみだすアジア～」を開催しました。

「日本ジョナサン・KS・チョイ文化館」は、香港のジョナサン・KS・チョイ様(新華集團会長、香港中華総商会会長、ジョナサン・

・KS・チョイ基金会長)からのご寄附により、東アジアの歴史・文化・教育・研究の交流拠点となる施設として建設されたもので、120名規模のシンポジウムを開催できる多目的ホールと少人数で利用できる会議室を設けています。今後、東アジアの学術、文化、技術の交流拠点として国際会議やその他のイベントを開催し、教育・文化・学術の交流・発展に繋がるよう活用していきます。



開館式の様子 久保総長とジョナサン・KS・チョイ様(右)



シンポジウムの様子

Topics

02

総合体育館屋内プール完成式を挙行

2018年7月17日(火)、伊都キャンパスの新たな福利厚生施設として完成した総合体育館屋内プールの完成式を行いました。

当日は、学内関係者をはじめ、水泳部などの公認学生団体とプール設立にご尽力いただいた多くの来賓の皆さまを含め、約90名にご参加をいただきました。

久保総長から、プール完成についての祝辞と学生への激励

がありました。また、プールの温水化に当たり、多大なるご支援をいただいた三浦工業株式会社および九州大学水泳部後援会の方からご挨拶をいただきました。

その後、久保総長や来賓代表、学生代表によるテープカットを行い、最後は、こけら落としとして水泳部による50mのデモンストレーション泳を行い、完成式は盛況のうちに終了しました。



関係者によるテープカットの様子



デモンストレーション泳の様子

Topics

03 「オープンキャンパス2018」を開催

本学の「オープンキャンパス2018」を2018年8月4日(土)から6日(月)にかけて、伊都、大橋、箱崎、病院の各キャンパスにおいて開催しました。猛暑の中での開催となりましたが、3日間で合計1万6,000人を超す来場者がありました。

開催期間中、多くの制服姿の高校生らが志望する学部の説明会場に詰めかけ、学部・学科の紹介や模擬講義などに熱心に耳を傾けて積極的に研究室や実験室を訪問する姿などがあちこちで見られました。

4日(土)の伊都キャンパスでは、2018年4月に開講した共創学部の企画による、概要説明、模擬授業などを実施し、大勢の参加者を集めました。

その他、今回のオープンキャンパスでは、附属図書館や総合研究博物館の標本などの公開、カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所(I²CNER)の実験室体験、伊都キャンパス学

生寄宿舎の見学ツアー、在学生による相談コーナー、サークル紹介などさまざまな企画も実施し、来場者の真剣な様子が伺える熱気に満ちた3日間となりました。



説明会の様子(共創学部)

Topics

04 科学者をめざして! 九州・山口の高校生が本学で本格的な研究体験をスタート!

2018年8月25日(土)、伊都キャンパスで「平成30年度 九州大学未来創成科学者育成プロジェクト(QFC-SP)」の開講式およびQFCプライマリー第1回シリーズ講座ならびにアドバンストコース第3回セミナーを開催しました。

本学は2014年度に始まった国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)の「グローバルサイエンスキャンパス」に採択され、九州・山口の科学分野に傑出した資質を秘めた高校生を受け入れ、本格的な研究体験を応援してきました。

そして今年度、4年間の独自のプログラムと実績が認められ、2度目の採択を受けることができました。再採択されたのは全国で3大学だけです。進化したプロジェクトは、高校生からの要望などを踏まえ、21世紀社会の課題に対応する4つのコース①Science&Materials「科学と物質」、②Energy&Earth「エネルギーと地球環境」、③Bio&Life「生物と生命」、④Design&Media「デザインとメディア」を設定し、研究テーマを絞り込む仕掛け、研究期間の長期化・充実化、研究成果を分かりやすく社会に伝える訓練なども用意した

高校生本位の教育プログラムとなりました。

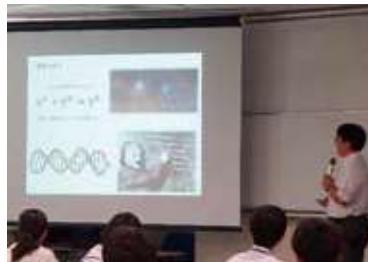
今年も多数の応募があり、これまで最も多い57校、181名の意欲ある高校生の応募がありました。開講式では、その高い競争率の中から選抜された66人と、旧プロジェクトから2年目に入った「アドバンストコース」の高校生8人が勢ぞろいし、平成30年度の活動が本格的に始まりました。

QFCプライマリー第1回シリーズ講座では、Science&Materialsコース担当の田中将己教授から「変形と破壊の科学」、Energy&Earthコース担当の寺西亮准教授から「電気抵抗ゼロの世界～-196℃で躍動する超伝導体～」、Bio&Lifeコース担当の角田佳充教授、沖野望准教授から「生体と物質」、Design&Mediaコース担当の牛尾剛聰准教授から「AIのしくみ」に関する講義を行いました。参加した高校生は目を輝かせて聴講し、多くの質問も挙がりました。

これからの本学での活動に弾みがつく、素晴らしい幕開けとなりました。



山縣理事による開会の挨拶



Science&Materialsコースの講演を行う
田中教授



Energy&Earthコースの講義を行う
寺西准教授



Design&Mediaコースの講義を行う
牛尾准教授

Topics

05

共創学部設置を記念したオープニングシンポジウムを開催

本学は、2018年4月に、約50年ぶりとなる12番目の新学部「共創学部」を設置しました。「共創学部」は、従来の学問方法のトレーニングを中心とした人材養成ではなく、地球の持続可能性に関する社会的課題(フューチャー・アース)を解決できる新たな高度人材養成を行うことを目的にしています。

このたび、共創学部の設置を記念して、2018年6月2日(土)に、椎木講堂(伊都キャンパス)で「地球規模の課題解決に真っ向勝負！：九州大学共創学部の目指す教育」と題したオープニングシンポジウムが開催され、高校生、保護者を含む248名の方にご参加いただきました。

シンポジウムの前半は、小山内康人共創学部長が共創学部の紹介を行うとともに、「共創」のなすべき社会的役割、大学教育に対する期待を、中村卓司氏(情報・システム研究機構 国立極地研究所長)、蟹江憲史氏(慶應義塾大学教授、SDSN(Sustainable Development Solution Network) Japan)、リチャード B. ダッシャー氏(スタンフォード大学アジア米国技術経営研究センター所長)そして、矢原徹一氏(九州大学持続可能な社会のための決断科学センター長)からご提言いただきました。

後半のパネルディスカッションでは、パネリストとして、福

岡県立小倉高等学校教頭 松本英先生、福岡雙葉高等学校教頭 吉岡由美子先生を招き、共創学部での教育・人材育成の在り方について議論を深めました。

シンポジウム終了後は、共創学部担当教員を含む本学の教員と、高校生や保護者がざくばらんに語り合う場を設け、和気あいあいとした雰囲気の中、歓談が行われました。多くの高校生にも参加いただき、大変有意義な懇談会となりました。



シンポジウムの様子

Topics

06

箱崎キャンパス中央図書館閉館式を開催

2018(平成30)年7月31日(火)、箱崎キャンパスの中央図書館において同館の閉館式を執り行いました。

附属図書館は1922(大正11)年に馬出地区に設置され、箱崎地区においては1925(大正14)年に附属図書館本館として開館しました。さらに1973(昭和48)年より、現在の場所で中央図書館として多くの学生、教職員にご利用いただきましたが、伊都キャンパスへの移転に伴い、本年7月31日をもって閉館となりました。

17時より開始した閉館式では、現役の学生教職員はもとより、縁のある卒業生やOBがエントランスホールを埋め尽くし、歴代館長・事務部長などによる挨拶、参加者全員での一本締めの後、記念撮影を行いました。閉館式終了後も、21時の閉館まで館内の壁に思い出のメッセージを書き遺すなど名残を惜しむ人で賑わいました。

伊都キャンパスイーストゾーンの中央図書館は、10月1日(月)に全面開館します。



閉館式参加者による記念撮影



壁面に記された利用者からのメッセージ

Topics

07

伊都キャンパスウエスト5号館、 およびイースト1・2号館の定礎式・内覧会を挙行

2018年5月18日(金)に総合研究棟(ウエスト5号館)、また、6月4日(月)に総合教育研究棟(イースト1・2号館)の完成にあたり、「永久堅固・安泰」を願う定礎式および内覧会を挙行し、多くの関係者が出席しました。

ウエスト5号館は、このたび箱崎キャンパスより移転する農学研究院が入る伊都キャンパスのウエストゾーンにおける主要施設であり、建物および周辺敷地は、南側から東西軸に対し平行に、外部空間のキャンパスコモン・キャンパスモール、建物内のオフィスゾーン・セミオフィスゾーン・ラボゾーンを並列配置する構成となっています。主要な3カ所の吹き抜け空間となるエントランスホールではプレゼンテーションなど多様な活動が可能であり、教育研究および学習環境が充実しています。

イースト1・2号館は、先に六本松キャンパスから伊都キャンパスに移転した比較社会文化研究院、地球社会統合科学府、言語文化研究院と、このたび箱崎キャンパスより移転す

る人文科学研究院、人間環境学研究院、教育学部、法学研究院、経済学研究院、統合新領域学府など、6研究院6学府5学部が入る伊都キャンパスのイーストゾーンにおける主要施設です。低層階のインナーモールにはプレゼンテーションスペース、リフレッシュスペースを設け、研究成果の発表や展示ができる空間とし、最上階にはかつて石ヶ原古墳があつた位置・高さに石ヶ原古墳跡展望展示室を設け、地域の歴史や伝統を継承しました。

開催されたこれらの施設の定礎式では、神事が厳かに始まり、久保総長をはじめ関係者による定礎之儀および玉串奉奠が執り行われました。その後、久保総長から挨拶とともに、建設に携わられた関係者の方々へ感謝の意が示されました。

式典後には、これらの施設内の内覧会を行い、出席者に施設全体の様子をご覧いただきました。

ウエスト5号館およびイースト1・2号館の整備により、さらなる教育研究の発展を期待します。

《ウエスト5号館》



定礎式の様子



ウエスト5号館

《イースト1、2号館》



定礎式の様子



イースト1、2号館

Topics

08

「課外活動における安全対策講習会」を開催

昨年10月に探検部の1年生が亡くなった事故を教訓とし、二度とこのような事故が起こらないよう、2018年5月23日(水)に安全対策講習会を実施しました。今回は、特に経験の浅い新入生を主な対象として、福岡市消防局防災センターから講師をお招きし、課外活動に当たっての心構え、準備、事故が起きた時の対応などについて、防災講習を行つていただきました。

当日は486名の学生と顧問教員が参加し、今回の講習会を通じて出た疑問について積極的に質問するなどして、

危機管理意識を高めることに繋がりました。

今後も引き続き、事故を未然に防ぐよう、学生に危機管理意識を持たせることを目的として、平成30年度は7月と12月の2回、安全対策講習会を実施する予定です。



丸野理事・副学長による開会挨拶



福岡市消防局 防災センターによる防災講習

Topics

09 第2回UQ-JPIE Programを開催

2018年7月2日(月)から2週間、オーストラリアのクイーンズランド大学(以降UQ)機械鉱山工学部より20名の学生を迎え、「第2回UQ-JPIE(The University of Queensland-Japanese Program for Industrial Experience)」を実施しました。このプログラムは豪州政府が推進する留学施策「新コロンボ計画」の一環で、本学工学部および国際部が本学とUQによる「UQ-KU研究教育交流プロジェクト」と連携して実施しています。

プログラム初日には、オープニングセレモニーを挙行し、久保千春総長および駐福岡オーストラリア総領事イアン・ブレイジア氏から激励の言葉が述べられ、セレモニー後は、総領事の講演会「オーストラリアと九州経済のつながり」も行われました。



オープニングセレモニーでの集合写真(中央ブレイジア総領事、久保総長)



最先端有機光エレクトロニクス研究センター(OPERA)の見学



安達千波矢教授の講義風景

Topics

10 ヤングアメリカンズ九州大学スペシャルを開催

2018年7月7日(土)~8日(日)の2日間、椎木講堂(伊都キャンパス)で「ヤングアメリカンズ九州大学スペシャル」が、伊都キャンパス移転完成記念行事として盛大に開催されました。

ヤングアメリカンズとは、40数人の外国人キャストが、200人を超える参加者に歌とダンスのワークショップを行い、最終日に1時間のショーを披露するものです。2日間という限られた時間の中で、参加者が「自分を信じて挑戦すること、お互いの違いを認め合って協力すること」の大切さを体験することが、一番の目的とされています。

福岡市および糸島市近隣の小中高校生207名に本学の学生20名、職員10名を加えた237名の参加者は、わずか2日間で20数曲の歌とダンスをマスターし、最終日には800人を超える観客が見つめる中、一人一人が主役となる素晴らしいショーを披露しました。

ショー終了後は、2日間楽しい時間を過ごしたキャストと参加者が喜びを分かち合い、抱き合って別れを惜しむ姿があちこちで見受けられました。

滞在中、UQの学生たちにとって、本学の研究者による特別講義や施設見学、日本を代表する複数企業へフィールドトリップへの参加することは、日本が世界に誇る産業技術の現状や日本の発展の歴史を知り、日豪のビジネス習慣の違いについて学ぶ機会となりました。

また、期間中、本学工学部の短期海外派遣プログラムで、8月から5週間UQに留学する日本人の学生たちとの交流活動も活発に行いました。

本プログラムに参加したUQの学生たちが、この2週間で学んだことを今後のキャリアに生かし、将来日本とオーストラリアの交流の架け橋となってくれることを期待しています。



舞台における全体レッスン



リハーサルの様子

《参加者の感想》

- キャストと仲良くなりたいのでもっと英語を勉強したい
- 間違ってもほめてくれたので、恥ずかしがらずに一歩踏み出す勇気が身についた
- 椎木講堂の舞台に来年も上がりたい

《保護者の感想》

- 2日間でたくさんの曲を覚えた子どもたちの才能に驚き、感動した
- 心の底から楽しむ子どもの姿を久しぶりに見ることができた
- 九州大学がすごく身近に感じられるようになった

Topics

11

「九州大学Big Orange Q-shop」が開店

2018年6月1日(金)、本学ビッグオレンジにアンテナショップ「Q-shop」(運営事業者:九州大学生活協同組合)が開店しました。

Q-shopは、本年10月の伊都キャンパス完成を控え、今後増加することが予想される来学者(年間約3万人)に対して、大学グッズ、飲料水などを販売する目的で設置されました。

九大グッズは、現在伊都キャンパス内では、皎皎舎およびウエスト2号館の伊都コンビニ店でも販売していますが、Q-shopは専用の売り場のため、全ての九大グッズが見やすく陳列されており、多くの品揃えの中から購入していただけます。

営業時間は平日の10~17時です。大学の行事などによっては、土・日・祝日も営業しております。



九州大学ビッグオレンジQ-shop



受賞のお知らせ

九州大学ロボコンチーム「KURT」 【アイデア賞および特別賞】

NHKおよびNHKエンタープライズが主催し、日本全国の大学が参加するロボットコンテスト「NHK大学ロボコン」として1991年から始まりました。2015年より高等専門学校や大学校も出場可能となり、「NHK学生ロボコン」と名称を改め、書類選考、ビデオ審査を経て、選ばれた約20チームがアイデアとチームワークを駆使して競うものです。

【ベスト4】

NHK学生ロボコン2018

木村 崇

理学研究院 主幹教授

「熱スピン注入を基軸にしたワイヤレス・スピンドバイスの開発」

ドイツ・イノベーション・アワード
「ゴットフリード・ワグネル賞2018」

ゴットフリード・ワグネル賞は、1868年に来日し、日本の科学界と教育界に大きな足跡を残したドイツ人科学者、ゴットフリード・ワグネルにちなんで名付けられた賞で、日独間の産学連携の促進と優れた日本の若手研究者の支援を目的として、2008年、技術革新を重視するドイツ企業と在日ドイツ商工会議所により創設されました。

九大会員の皆様へ～新たな特典のご案内～

浜地酒造 杉能舎 Tel:092-806-1186 Webサイト:<http://www.suginoya.co.jp/>



【九大会員特典】

- ・「酒蔵売店」または「やきたてパン工房」での店内購入時に
お会計代金より**5%割引**
- ・酒蔵宴会ご利用時に、**九大特別限定醸造酒「九州大吟醸」**を
サービス

筥崎宮 Tel:092-641-7431 Webサイト:<http://hakozakigu.or.jp/>



【九大会員特典】

- ・「神苑花庭園」入苑(入園)料(1月1日～12月10日)
通常500円 → **九大会員特別料金300円**
- ・「あじさい苑+神苑花庭園」入苑(入園)料(6月1日～30日)
通常500円 → **九大会員特別料金400円**
(あじさい苑200円、神苑花庭園200円)

ウェディングポスト Webサイト:<http://www.weddingpost.co.jp/>



【九大会員特典】

- ・ご婚礼の挙式費用、披露宴代、レンタル衣装代、
写真代より**10%割引**
- 【対象店舗】
・筥崎宮ウェディング(福岡・箱崎) Tel:092-632-5588
WEBサイト:<http://www.hakozakigu-wedding.jp/>

【九大会員特典】

- ・レストラン・カフェご利用時の飲食代金より**10%割引**
- 【対象店舗】
・筥崎宮迎賓館(福岡・馬出) Tel:092-651-1100
・筥カフェ(福岡・馬出) Tel:092-651-1100
Webサイト:<http://hakozakigu-geihinkan.jp/>

個別指導塾スタンダード Webサイト:<http://std-ie.jp/>



【九大会員特典】

- ※①～③のうちから、いずれかを選択。
※③は、入会時のお支払いが総額15,000円以上が条件。
- ①1ヶ月分の月謝を**30%OFF**
 - ②無料指導コマ3コマ分をご進呈
 - ③3,000円分の図書カードまたはQUOカードをご進呈

【対象店舗】

- ・全国にある教室(491教室以上)

志摩シーサイドカンツリークラブ Tel:092-327-2131 Webサイト:<http://simascc.com/>



【九大会員特典】

- ・九大会員証のご提示で、
ビジター料金より**10%割引**
- 【九州大学カード(クレジットカード)特典】
・九州大学カードのご提示で、
ビジター料金より**10%割引**

九大会員の皆様へ～新たな特典のご案内～

箱崎料飲店組合



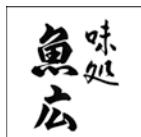
【九大会員特典】

・ランチ時:100円割引　・ディナー時:ドリンク10%割引

【対象店舗】

・イタリアンバル アーリオ オーリオ(福岡・箱崎1-28-15)

Tel:092-633-6789



【九大会員特典】

・旬の小鉢2品サービス

【対象店舗】

・味処 魚広(福岡・箱崎1-36-35) Tel:092-632-0766(完全予約制営業)



【九大会員特典】

・コースご注文の方に食前酒をサービス(要予約)

【対象店舗】

・日本料理 梅嘉(福岡・箱崎2-10-12) Tel:092-651-2550



【九大会員特典】

・九大会員を含む5名様以上 焼酎5合瓶を1本サービス

・九大会員を含む10名様以上 焼酎1升瓶を1本サービス

・カウンター席のみ 付き出し(お通し)をサービス

【対象店舗】

・居酒屋 串太(福岡・箱崎2-12-15) Tel:092-651-6639



【九大会員特典】

・九大会員セット(生ビール・小鉢・枝豆・焼き鳥3本)を1,000円でご提供

【対象店舗】

・居酒屋 海門(福岡・箱崎3-12-1) Tel:092-651-1545



【九大会員特典】

・お一人様 カラオケ5曲無料

・九大会員5名様以上 焼酎(麦または芋)5合瓶を1本サービス

【対象店舗】

・歌ごえスナック ガス燈(福岡・箱崎3-10-1) Tel:092-631-1387



【九大会員特典】

・ご飲食代金より5%割引

【対象店舗】

・屋台 花山(福岡・馬出5-19-10) Tel:092-631-1408

このほかにも多くの特典をご用意していますので、ぜひご入会いただきますようお願い申し上げます。

○九州大学基金・九大会員に関するお問い合わせはこれら 九州大学総務部同窓生・基金課

〒819-0395 福岡市西区元岡744 TEL:092-802-2150 E-mail:k-kikin@jimu.kyushu-u.ac.jp

九州大学基金ウェブサイト [九州大学基金](http://kikin.kyushu-u.ac.jp/) [検索] <http://kikin.kyushu-u.ac.jp/>





在ベトナム同窓生との懇談会



ハノイオフィス・ニヤン所長の挨拶



出席者での集合写真

総務部同窓生・基金課同窓生連携係

〈連絡先〉TEL:092-802-2156 E-mail:sykdoso@jimu.kyushu-u.ac.jp

平成30年4月12日(木)、ベトナム・ハノイにおいて、玉上理事・事務局長、緒方副学長らが元留学生との懇談会に出席しました。

当日は、出席した元留学生7名を代表して、本学ハノイオフィスのニヤン所長(平成3年・経済学部会副会長)から、「2018年は日越外交関係樹立45周年にあたり、福岡、九州大学との関係をより一層深めていきたい」との挨拶がありました。

歓談中は、それぞれ在学中の出

来事や現在の状況について情報交換したほか、写真撮影などで大いに盛り上がりました。

閉会に際しては、ニヤン所長から、ハノイにおける既存のネットワークを九州大学の同窓会として組織化していく旨の発言があり、本学としても隨時情報共有していくこととなりました。

今後は、駐在員などとして在住されている日本人同窓生の方々にも呼びかけ、さらなるネットワークの拡充と交流の活性化が期待されます。



農学部キャンパスツアー

150名を超える同窓生が思い出話に花を咲かせる賑やかな宴



パネルトークの様子



懇親会の様子

平成30年5月初旬から、農学部の伊都キャンパス移転が開始されました。少しずつ様変わりする箱崎キャンパスにて、5月19日(土)、農学部同窓会評議員会・総会に続き、農学部との共催で第2回「さよなら『箱崎農学部』同窓会」が開かれました。

昨年同様にキャンパスツアーガー実施された後は、場所を福岡リーセントホテルに移し、パネルトーク「農学部の過去・現在・未来」が開催されました。各世代からの同窓会員7名が登壇し、スクリーンに映し出される写真を眺めながら数々のエピソードを語り合う、笑いあり感動ありの1時間でした。

その後の懇親会は、和田光史同窓会会长(元総長、昭和26年・農芸化学科卒)による乾杯に始まり、田凱則北海道支部長(昭和36年・林学科卒)による乾杯に始まり、農学部同窓会理事 青木 智佐(平成2年・農学部農学科卒業)

となりました。最後は、懐かしの九州大学学生歌「松原に」を江頭和彦会員(元農学研究院長、昭和42年農芸化学科卒)の先導により参加者全員で斉唱し、幕を閉じました。

農学系キャンパス移転は9月末日で完了します。いよいよ伊都の地での新たな幕明けとなりますが、気持ちも一新して同窓会活動の充実を図ってまいります。



農学部同窓会 定例会議・さよなら「箱崎農学部」同窓会

〈連絡先〉九州大学農学部同窓会事務室 TEL・FAX:092-806-9005 E-mail:dousou@grt.kyushu-u.ac.jp



理学部地質学科・地球惑星科学科同窓会 (能古会) 東京支部



芸術工学50周年記念事業

同窓会だより



Alumni Association

講演では、早稲田大学の小峯秀雄教授と千葉工業大学の佐藤峰南上席研究員(平成27年・博士課程修了)のお話を伺いました。

小峯先生からは、「廃炉地盤工学の創出」のタイトルで、土木と原子力工学の考え方の相違に苦労されていること、廃炉まで30～40年よりもっと時間がかかる可能性があること、燃料デブリ取り出しの際に使用する放射線遮蔽性能を有する超重泥水を開発していることなどの大変興味深いお話がありました。

佐藤先生からは、「美濃帶上部三層系層状チャートから復元した隕石衝突の痕跡」のタイトルで、三畳紀末期の生物の大量絶滅に関わる隕石衝突の痕跡を岐阜県・愛知県の境界付近の露頭で発見されたことについて、世界初の発見であったという大変衝撃的でロマンに駆られるお話がありました。

懇親会では、昭和30年卒の大ベテランから今年卒業されたフレッシュマンまでが一堂に会し、美味しくありました。

平成30年5月26日(土)、IVYホールにて能古会(理学部地質学科・地球惑星科学科同窓会)を開催し、23名が参加しました。

講演では、早稲田大学の小峯秀雄教授と千葉工業大学の佐藤峰南上席研究員(平成27年・博士課程修了)のお話を伺いました。

小峯先生からは、「廃炉地盤工学の創出」のタイトルで、土木と原子力工学の考え方の相違に苦労されていること、廃炉まで30～40年よりもっと時間がかかる可能性があること、燃料デブリ取り出しの際に使用する放射線遮蔽性能を有する超重泥水を開発していることなどの大変興味深いお話がありました。

今後も能古会での交流を通じて、ネットワークの充実を図りたいと考えています。

退官された京都大学の酒井治孝先生(昭和56年・博士課程修了)の写真展示に多くの参加者が見入っていました。

渾沌会は、芸工大時代から卒業生の交流、名簿の整備などの事業を実施してきました。九州大学との統合は大きな契機となりましたが、九大の卒業生も増加し、若手との連携を模索しています。この芸工大宴会は、30～40代の若手卒業生を中心に準備を進めました。多彩な面々がアイデアを出し、会場設営、ウェルカムドリンク、名刺の壁、映像、司会、餅つき、サークルブースなどが企画されました。

芸術工学部は1968年の九州芸術工科大学の創立から50年を迎えた。九州大学芸術工事業を実施しています。詳細は九学部・九州芸術工科大学同窓会(渾沌会)は部局と連携して記念事業を実施しています。詳細は九大広報111号をご覧ください。

本欄では主に6月2日(土)の芸工大宴会を紹介します。

渾沌会は、芸工大時代から卒業生の交流、名簿の整備などの事業を実施してきました。九州大学との統合は大きな契機となりましたが、九大の卒業生も増加し、若手との連携を模索しています。この芸工大宴会は、30～40代の若手卒業生を中心に準備を進めました。多彩な面々がアイデアを出し、会場設営、ウェルカムドリンク、名刺の壁、映像、司会、餅つき、サークルブースなどが企画されました。

く4百89万5千円の心ある支援

によりプロジェクトとして成立し

ました。今後は、卒業生のみならず、大学、在学生、企業などとの

芸工ネットワークを強化し、確かな歩みを続けていきます。



集合写真

能古会東京支部 注連本 英典(平成6年・地球惑星科学科卒)
(連絡先) 同窓会事務局(東京支部 河野 啓幸(昭和54年・地質学科卒))
E-mail:yoshiyuki_kawano@jpower.co.jp

本番当日、参加者数は936名に上り、約1割の卒業生が参加しました。ホールの外でも集いの輪が広がり、芸工が如何に愛されているかを感じるひと時でした。

さらに渾沌会は「芸工アプリ」づくりを開始しました。宴会前後に実施したそのためのクラウドファンディングは、めでた



芸工大宴会集合写真(多次元デザイン実験棟にて)

渾沌会会长挨拶(芸工大宴会)

会長 鮎川 透(1970年入学・芸術工学部卒)
(連絡先) 同窓会事務局 朝廣 和夫 E-mail:asahiro@design.kyushu-u.ac.jp



東京九機会見学会

東京九機会は、九州大学工学部機械系学科卒業生の関東地区の同窓会です。

6月16日(土)、セイコーミュージアムで見学会を開催し、ご家族も含め16名の参加がありました。

セイコーミュージアムは「時と時計」をテーマにした博物館。日時計から始まり、正確な時間の測定を追求し続けた時計の歴史や、からくり時計や特殊機能などの複雑な時計の仕組みに、機械工学の専門家の皆さんは興味津々。デイプな質問にも技術者出身の説明員の方が丁寧に答えてくださり、大いに知的好奇心を満たしました。

懇親会はもんじや焼き屋を借りてランチパーティー。長く関東に住んでいても、もんじや焼き食べるものが初めてという方も意外といらっしゃいました。下町の伝統的な味に舌鼓を打ち、思い出や近況を語り合い、楽しいひと時を過ごしました。

さらに今年度は、9月の総会をはさんで来年1月または2月にアメリカクルージング企画しています。東京湾内を巡る船上でのランチや趣向を凝らしたイベント

が大好評で、毎年多くの同窓生やご家族に参加していただいている。詳細は関連ウェブサイトをご参照ください。皆さまのご参加をお待ちしています。



セイコーミュージアムにて

ランチパーティー

東京九機会幹事(広報担当) 岩崎 誠司(昭和63年・工学部卒)

〈連絡先〉東京九機会幹事共通アドレス:tokyo-kyukikai@kyudai.jp

〈関連ウェブサイト〉<https://koyukai.kyushu-u.ac.jp/alumni/179>



関西同窓会 夏季ビアパーティー

平成30年8月8日(水)、ハートンホテル北梅田にて、夏季ビアパーティーを開催しました。

第一部の公開講演会では、一般の方にも多くご参加いただき、弘前大学准教授・前農学研究院助教の川端二功先生による「三ワトリはどのように味を感じているのか?」ニワトリの味覚機能の理解と畜産への応用」というテーマで分か

りやすくお話しいただきました。会場からも多く質問が出て、有意義な講演会になりました。

第二部では、関西同窓会が設立10周年ということで、開設に尽力いたいただいた、元京都府知事の荒巻禎一さん(昭和28年・法学部卒)などが表彰を受けられました。

恒例のコールアカデミーOBに

よる合唱の後、応援団O.B.のリードの下、全員で「松原」を齊唱して終了しました。



感謝状贈呈の様子



久保総長の挨拶



乾杯の様子

本年7月に発行しました111号(26頁「第16回唐津地区同窓会」)において誤りがございました。文中の「春の賛歌」は、正しくは「春の讃歌」です。以上のように訂正し、ここに謹んでお詫び申し上げます。

関西同窓会幹事長 岡 政徳(昭和44年・法学部卒)

〈連絡先〉E-mail: osaka-office@jimu.kyushu-u.ac.jp



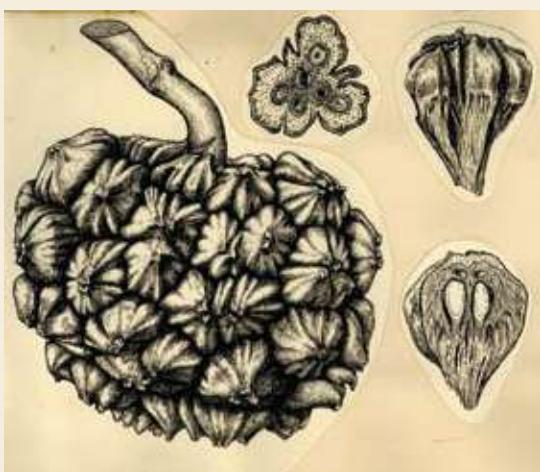
九州大学総合研究博物館
Kyushu University Museum

MUSEUM REPORT vol. 14 / 植物描画

金平亮三の科学描画原図 エビデンス 科学的証拠から発露する芸術性



(写真1)2014年に偶然発見された金平亮三の科学描画原図の一部



(写真2)学術論文用の原図。学名に金平の名が付されている植物

自然科学研究の基礎的基本は「観察」と「記録」といえます。特に「記録」は、科学研究における重要な「証拠」となります。学術論文において、そのような「証拠」を示す図解の一種が「描画」です。

写真と異なり、「科学描画」では線画で科学的に正確な再現をしつつ、意図的な強調・省略をなすのが特徴です。実物を余すところなく正確かつ緻密に記録し伝達するという科学的手法と、鍵となる観察的知見を強調し、相対的に不必要的ものや重要でないものは省く、という表現手法が同時にとられています。

今回紹介するのは、金平による科学描画の原図が、箱崎キャンパスの旧中央図書館5階にあった農学部標本庫から、2014年、全くの偶然で「発見」されました(写真1)。

原図は全部で約50点近くあり、総じて大変美しい描画ばかりで

金平による植物誌『南洋群島植物誌』や『台湾樹木誌』には、描画者として「眞隅太莊」などへの

謝辞が述べられており、

必ずしも全ての描画が金平によって描かれているわけではない、とい

うことが分かります。描画者によって、描画のタッチが異なっているのかかもしれません。それそれの原

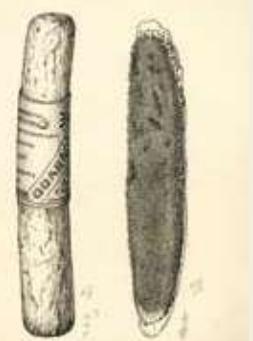
因の描画者は誰なのか、どの論文や植物誌で用いられている描画なのかなど、これらの研究も楽しみです。

九州大学総合研究博物館
准教授 三島美佐子

【展示会情報】伊都につながる百年 -学術遺産と学者達-

伊都キャンパスの完成を記念し、九大の百年を超える歴史の中でのさまざまなエピソードを紹介しつつ、その過程で蓄積された学術標本や資料、大学史資料を展示いたします。かつて最先端の研究成果を生み出したこれらの資料が、今後も分野横断的な新しい研究を生み出す可能性を考え、さらなる百年における資料収集の在り方を考えます。

■会期予定:平成30年9月下旬~10月末日 ■会場:椎木講堂(福岡市西区元岡744)



(写真3)民俗資料の描画例。ガラナと魚舌

第71回九大祭「織りなす」

九大祭は、10月上旬に伊都キャンパスにて開催される九州大学最大規模の学園祭です。今年のテーマは「織りなす」です。縦糸と横糸で布を織りなすように、九大生と来場者の皆さまで一緒に九大祭を作っていくたいという思いを込め、このテーマを設定しました。九大生による教室企画やステージ企画、テント企画に加えて、ミスター九大コンテストや九大人気教員による特別講義など、多くの方に楽しんでいただけるさまざまな企画をご用意しています。ぜひお越しください。



2017年のコンテストの様子



多くの人でぎわうテント企画

- 日時:平成30年10月6日(土)・7日(日)
- 場所:九州大学伊都キャンパス(福岡市西区元岡744)
- お問い合わせ:info71@kyudaisai.jp
- Twitter:@kyudaisai
- Webサイト:<http://kyudaisai.jp/>

第15回芸工祭「星彩」

旧九州芸術工科大学から続いてきた芸工祭は、今年で記念すべき第15回目を迎えることとなりました。芸工祭では、ライブイベントや売店はもちろんのこと、映像、照明や音効を駆使した前夜祭、インスタレーション、演劇やファッションショーなど、芸術工学部ならではといった学祭企画も行います。また、今年はT-1グランプリが復活します!ご来場の皆さんに、お気に召されたテント企画を投票していただき、2日目にフライパン広場で表彰します。

驚きと感動をお届けする数々の学祭企画や、しぶきを割りあうテント企画たちが皆さまをお待ちしております。



フライパン広場でのイベント



芸工祭の最後を飾る火祭

- 日程:2018年10月6日(土)・7日(日) ※5日(金)前夜祭
- 場所:九州大学大橋キャンパス(福岡市南区塙原4-9-1)
- お問い合わせ:第15回芸工祭実行委員会
- E-mail:geikofes15th.committee@gmail.com
- Twitter:@goken_15th

九大伊都キャンパス完成記念

第14回西祭(SaiSai)

～西区みんなでつくる文化祭～スペシャルイベント

九州大学吹奏楽団と 西区市民吹奏楽団ジョイントコンサート



九大吹奏楽団



西区市民吹奏楽団

九州大学伊都キャンパスの完成を記念して、九州大学と西祭実行委員会の共催で「九州大学吹奏楽団と西区市民吹奏楽団ジョイントコンサート」を行います。

1部、2部は各楽団の単独演奏。3部では両楽団初ジョイントの総勢約120名による壮大な大演奏をお届けします。最後には観客の皆さんも参加できる「吹奏楽ジャンボリー」を実施。楽器をご持参いただいて、楽団と一緒に演奏を楽しみませんか。もちろん、楽器がなくても、入場できます。ぜひご来場ください。

- 日時:2018年12月2日(日) 開場/13:30 開演/14:00 ※16:00頃終演予定
- 会場:伊都キャンパス 椎木講堂コンサートホール
- 入場料:無料
- お問い合わせ:西祭実行委員会(事務局 西区企画振興課)
- E-mail:shinko.NWO@city.fukuoka.lg.jp
- TEL:092-895-7033

住所変更ほか、発送についてのお問い合わせは、封筒記載の連絡先へお願いします。

九州大学広報室 TEL:092-802-2130 E-mail:koho@jimu.kyushu-u.ac.jp

九州大学学生後援会 TEL:092-802-5968 E-mail:gaggkouenkai@jimu.kyushu-u.ac.jp

九州大学同窓会連合会 TEL:092-802-2158 E-mail:sycdo-rengo@jimu.kyushu-u.ac.jp

